

教科等研究会（中学校社会科部会）

令和6年度 研究活動のまとめ

1 研究テーマ

民主主義の担い手に必要な資質・能力を育む社会科の探求
～生徒の「問い」を生み出す授業デザインの工夫～

2 研究経過

月日（曜日）	活動内容	活動場所	人数
6月7日（金）	第1回上益城郡教科等研究会中学校社会科部会（半日） 本年度研究テーマ協議、研究組織づくり等	益城町立 益城中学校	20名
8月23日（火）	第2回上益城郡教科等研究会中学校社会科部会（終日） 夏季巡検 益城町内の史跡・甲佐神社他		20名
10月22日（火）	第3回上益城郡教科等研究会中学校社会科部会（半日） 研究授業および授業研究会 【歴史的分野】1年生「モンゴルの襲来」 授業者：益城町立益城中学校 桐原 孝太 教諭	益城町立 木山中学校	20名
1月23日（木）	第4回上益城郡教科等研究会中学校社会科部会（半日） 今年度の反省および次年度への志向	益城町立 益城中学校	20名

3 研究の概要

(1) 研究の内容（夏季巡検、研究授業及び授業研究会）

本部会では、熊本県中学校社会科教育研究会の研究テーマ「民主主義の担い手に必要な資質・能力を育む社会科の探求～生徒の「問い」を生み出す授業デザインの工夫～」に基づき、「生徒の問いを生み出す単元設計や発問の工夫」を実践の柱として研究に取り組んだ。

8月の夏季巡検においては、国の天然記念物である、益城町木山中学校区の布田川断層帯および、木山城址・木山神宮について、益城町教育委員会生涯教育課の生涯学習係長にガイドしていただきながら見学した。また、甲佐町に移動し、甲佐神社にて蒙古襲来絵詞等について見学した。

10月の授業研究会では、夏季巡検で見学した甲佐神社の蒙古襲来絵詞を教材として取り上げつつ、事前研で練り上げた学習構想案をもとに研究授業を実施した。授業研究会では、「生徒の問いを生み出す単元設計や発問の工夫」を討議の柱として、教材や発問、学習形態などについて活発に意見交換がなされた。その内容を、以下に具体的に説明する。

ア 巡検と地域教材の授業化

本部会では、巡検の当日に教材研究の時間を設定し、小グループに分かれて巡検の内容をどのように授業化していくかという協議を全員で行っている。

本年度は、木山中学校の教諭が授業者であったため、地域教材の授業化をにらんで、国の天然記念物である布田川断層帯、および南北朝期にルーツをもつ木山城趾、江戸時代創建の木山神宮を参観した。さらに、教科書に掲載されている重要資料である『蒙古襲来絵詞』の模写が納められている甲佐神社も巡検先に加え、地理的分野、歴史的分野の双方から、授業化できる素材がないかという視点で巡検を行った。

巡検後には、授業者の意思を尊重して、歴史的分野「ユーラシアの動きと武士の政治の展開」の「モンゴルの襲来」部分において、甲佐神社の『蒙古襲来絵詞』の模写を活用した授業ができないか協議した。

協議では、「なぜ竹崎季長は『蒙古襲来絵詞』を描かせる必要があったのか」や、「なぜ『蒙古襲来絵詞』の一部分のみが教科書によく掲載されるのか」など、生徒の問いを生み出すような学習課題の例がいくつか出された。



【甲佐神社】



【木山城址】



【布田川断層帯】

イ 研究授業および授業研究会の概要

夏季巡検後の研究会での議論や、授業実施校の学習進度も踏まえて、本時では甲佐神社の『蒙古襲来絵詞』を教材として用いた「モンゴルの襲来」の授業を実施することにした。

単元を貫く課題として「大帝国に勝利した鎌倉幕府が衰退したのはなぜか」という課題を設定し、元寇が鎌倉幕府の根幹である封建制にどのような影響を与えたのかを考察させる内容を構成した。

また、熊本県中学校社会科教育研究会では、表1のように問いの種類と教師の工夫の例を整理しており、この「①学習内容に対する既有知識とのズレ・ギャップ・意外性から生まれる『問い』」に基づいて、研究授業では、「大帝国に勝利したのになぜ鎌倉幕府が衰退したのか」という、生徒の既有知識や素朴概念とのギャップを生み出す発問を取り入れた。

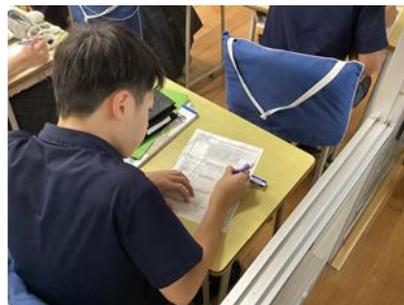
その結果、生徒は意欲的に資料を活用して探究することができた。課題としては、小学校においても触れられている教材であり、生徒は一定の知識を得ているため、小学校時の理解を変革・成長させるような授業づくりが求められる点があげられた。

問いの種類	場面	教師の工夫	備考
①学習内容に対する既有知識とのズレ・ギャップ・意外性から生まれる「問い」	単元や各時の導入・展開部	事前アンケート等で生徒の既有知識を把握し、ズレやギャップ・意外性を生む教材の準備をする	そのまま学習課題や単元を貫く課題になる場合もある
②学習課題や教師の発問を調べるための小さな「問い」	単元や各時の導入・展開部	学習課題や発問に答えるためには、どんなことを調べるべきか、視点を与える資料等を提示する	生徒が気づく視点と気づかない視点を考え、生徒が多面的・多角的に調べられる資料の準備が必要
③調べる中での矛盾に対する「問い」や異なる立場・視点に対する疑問などの「問い」	単元や各時の展開部	調査活動・調べ学習の中で、自分の予想に反することに気づかせたり、異なる立場や視点に目を向けさせたりする	議論型の授業や、ジグソー学習等で有効
④学習内容を習得した結果、新たに思った疑問や解決すべき課題に関する「問い」	単元や各時の終結部	学習内容を振り返る中で、さらに調べるべきことや疑問を出させる	次時の学習や次の単元、他分野の学習等につなげる

表1 問いの種類と教師の工夫の例

(2) 成果と課題

- 巡検で得た内容をどのように教材化・授業化するかという視点で教材研究を行ったことで、地域教材を活用した生徒の興味関心を高める授業づくりについて協議することができた。
- 生徒の既有知識や素朴概念を覆す「なぜ」型の発問を行うことによって、生徒の中に問いを生み出す授業デザインの一例を示すことができた。
- 巡検では、地域についてより深く知り、地域教材の発掘に努めたが、教科書内容と照らし合わせたときに、巡検で知り得た内容を、そのまま単元あるいは本時をつらぬく課題として授業化することは困難であった。導入や終末部において一部だけの使用に留まったため、今後はさらに深く授業化できるスキルを磨いていきたい。
- 問いを生み出す授業の指導と評価の一体化について追及することができなかった。



4 実践事例

(1) 授業の概要

本時の授業では、東京書籍「新しい社会 歴史」における「武士の政治の成立（p64～86）」単元における「モンゴルの襲来」部分において、甲佐神社の『蒙古襲来絵詞』の活用を意図した。

まず、導入部において、単元課題である「大帝国に勝利した鎌倉幕府が衰退したのはなぜか」を提示し、既有知識とのズレ・ギャップ・意外性から生まれる「問い」を生み出すことを意図した。その際、甲佐神社所蔵の『蒙古襲来絵詞』を示すことによって興味関心を高めるようにした。

次に、『蒙古襲来絵詞』における幕府の役人と御家人との会話を予想させる活動や、鎌倉期の土地の分割相続や徳政令といった資料を読み取らせる活動を取り入れ、鎌倉幕府が衰退した要因を考察させる活動を行った。

最後に、グループでの話し合い活動や全体共有を行い、学習課題に対してのまとめや本時の学びのふりかえりを行って授業は終了した。

(2) 学習構想案

中学校第1学年2組 社会科 学習構想案

日 時 令和6年10月22日（火）第5校時

場 所 1年2組教室

指導者 教諭 桐原 孝太

ア 目標

鎌倉幕府衰退の要因をモンゴル帝国の拡大などと関連付けながら多面的・多角的に考察し、表現している。

イ 展開

過程	時間	学習活動 (◇予想される生徒の発言)	指導上の留意事項 (学習活動の目的・意図, 内容, 方法等)
導入	3分	<p>(3分前音読)</p> <p>1 これまでの学習を振り返り、学習課題を確認する。</p> <p>①本時のめあてを確認する</p> <p>【めあて】鎌倉幕府が衰退した理由を説明できる。</p> <p>◇鎌倉幕府は勢力の大きいモンゴル帝国に勝ったにも関わらず、衰退したよね。</p> <p>②本時の流れを知る</p> <p>◇元寇で勝った鎌倉幕府が衰退したのはなぜ？</p> <p>【学習課題】 モンゴル帝国に勝利した鎌倉幕府が衰退したのはなぜか</p>	<p>○単元計画を基に、本時のめあてを確認する。</p> <p>○第一次に行った、鎌倉幕府衰退の理由にはどんな要因があるのかという問いの予想を提示して、振り返り、本時の見通しを持たせる。</p>
展開	37分	<p>2 学習課題を追究する</p> <p>【期待される学びの姿】 ●幕府滅亡の要因を学習したことを● ●基に説明しようとしている姿。●</p> <p>①蒙古襲来絵詞での会話を予想し、幕府の政治が揺らいできたことを考察するきっかけを作る。 ・竹崎季長と奉公奉行のセリフを考える。(ペア)</p> <p>②鎌倉幕府衰退の要因となる4つの資料を読み取る。</p>	<p>(個に応じた支援)</p> <p>○自分の予想と考えをまとめ他者と考察できるようにする。</p> <p>【具体の評価規準】思① ○鎌倉幕府衰退の要因を元寇の襲来と御家人の生活や幕府の政策を関連付けて表現している。(方法：グループワーク・発言)</p> <p>○意見交換ではロイロノートで配布する資料を活用し考察をスムーズに行えるようにする。</p>

		<ul style="list-style-type: none"> ・班で学習課題の選択をする。 ・個人で考える。 ・班で考察しボードにまとめる。 ・別の班の課題も考察する。 ・他の班から情報を収集する。 <p>③考察の全体共有</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各資料について発表する。 	<p>○こちらから指名し発表を行う。</p> <p>○追加したほうがいい情報を生徒から聞き出し共有する。</p> <p>【到達していない児童への手立て】</p> <p>○ヒントとなる資料を示し、なぜ衰退したのか考えさせる。</p>
終末	10分	<p>3 学習課題のまとめを行い、本時の学習を振り返る。</p> <p>①学習課題についてのまとめを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・セルフトーク、ペアトーク <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>【まとめ】 元寇での恩賞が不十分な中で、分割相続で領地が減少したり、徳政令で一時的にしか負担が減らなかった御家人たちの不満が権力が集中する北条氏や幕府に向かっていった。</p> </div> <p>②第一次の予想と比較し、本時の学習を振り返る</p>	<p>○生徒の言葉でキーワードを設定し、まとめさせる。数人に発表させ、新たな考えなどメモを取らせる。</p>

【板書計画】

めあて

鎌倉幕府が衰退した理由を説明できる。

学習課題

モンゴル帝国に勝利した鎌倉幕府はなぜ衰退したのか？

授業の流れ

- 学習課題の確認
- 蒙古襲来絵詞のセリフを考察！
- 学習課題
- まとめ
- ふりかえり

				
	考察	考察	考察	考察
	考察	考察	考察	考察
			考察	考察

まとめ

元寇での恩賞が不十分な中で、分割相続で土地が減少したり、徳政令で一時的にしか負担が減らなかった御家人たちの不満が権力が集中する北条氏や幕府に向かっていった。

【ICT活用計画】

ロイロノートを利用し、蒙古襲来絵巻の中で恩賞を竹崎季長が直談判する場面のセリフを考えさせる。第1時で行った学習課題の考察はメンチメーターを活用し、電子黒板で視覚的にクラスの意見を共有する。振り返りとまとめを行う際は、ロイロノートの提出箱を活用し、電子黒板に掲示することで、全体での意見共有を図る。

【見方・考え方を働かせて解く適用問題等の計画】

- ・まとめ、振り返りシートを活用する。
- ・授業内容に関わる県版テストの過去問に取り組む。
- ・単元テストを実施し、知識の定着を図る。